

奈良県民の生活意識・行動等に関する調査結果 (インターネット調査:2014年10月実施)

～県民の4割が「奈良県の将来について不安」、6割が「奈良県を良くすることに貢献したい」～

ポイント

- ① 奈良県在住の回答者800人のうち、奈良県以外で出生した人は全体の54.8%。県内への転居理由の第1位：男性は「自分自身の仕事の都合のため」28.7%、女性は「結婚のため」30.0%。
- ② 奈良県のプラスイメージの第1位は「歴史のある」78.8%、マイナスイメージの第1位は「活気がない」41.8%。
- ③ 奈良県の経済・産業に対する認識：「発展・成長している」7.1%、「衰退している」38.9%。
- ④ 県民の5割弱が買物や余暇活動などを楽しむために「ほぼ毎月1回以上」県外へ出かけている。
- ⑤ 県民の4割が「奈良県の将来について不安」。同7割が奈良県は「変化を嫌う傾向がある」「もっと新しいことに取り組むべき」、同6割が「奈良県を良くすることに貢献したい」。
- ⑥ 人口減少を踏まえ、県民の約8割が「地域産業を活性化し、就業機会を増やすべき」「女性や高齢者が働きやすい雇用環境を整備すべき」。
- ⑦ 人口減少を踏まえ、県民の約7割が「奈良県は、近畿の他の府県と積極的に連携していくべき」「行財政改革を推進し、効率的な行政運営を実現すべき」、同5割が「人口減少に見合うよう、公共事業の支出を削減すべき」。
- ⑧ 重点的に改善等に取り組むべき第1位は「急病時や出産時等に安心できる医療体制の整備」。

調査結果の留意点

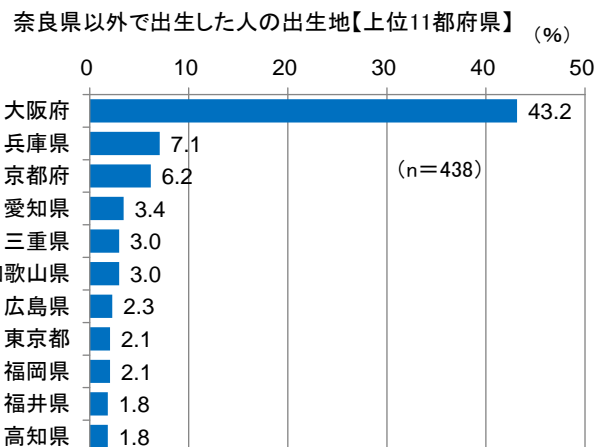
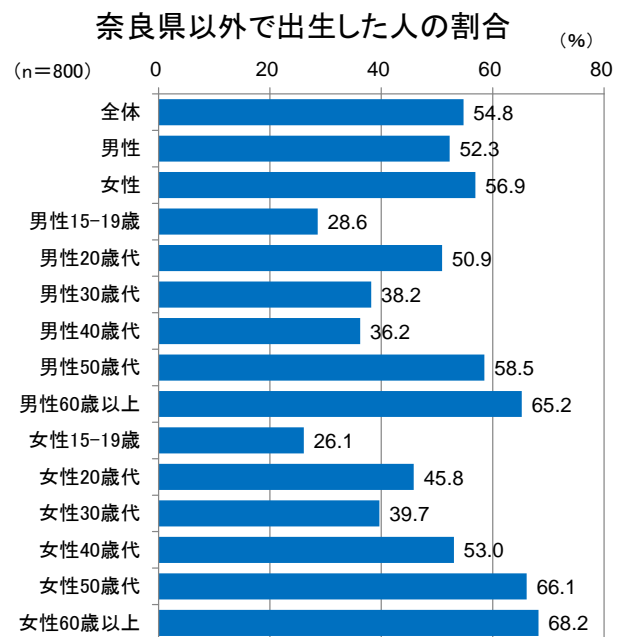
- ① 「n」はサンプル数(有効回答数)、あるいは各質問の該当者数【特に断りのない限り「n=800」】。
- ② 四捨五入の関係で、比率の合計が100%にならない場合がある。
- ③ 複数回答の質問では、回答者総数を分母に構成比を算出しているため、百分率の合計が100%を超える場合がある。

1 奈良県での居住の状況

1. 奈良県以外で出生した人の割合・出生地等

回答者の出生地を聞いた結果、奈良県以外で出生した人は全体(n=800)の54.8%。性別・年代別にみると、男性・女性とも50歳代・60歳以上で6～7割とやや多い。

奈良県以外で出生した人の出生地(n=438)は、「大阪府」43.2%が最も多く、次に「兵庫県」7.1%、「京都府」6.2%、「愛知県」3.4%、



「三重県」「和歌山県」各3.0%、「広島県」2.3%、「東京都」「福岡県」各2.1%が続いている。上位3府県で全体の56.5%を占めている。

また、奈良県以外での1年以上の居住経験がある人は全体の65.4%。性別・年代別にみると、男性・女性とも50歳代・60歳以上で7~8割とやや多い（図表掲載省略）。

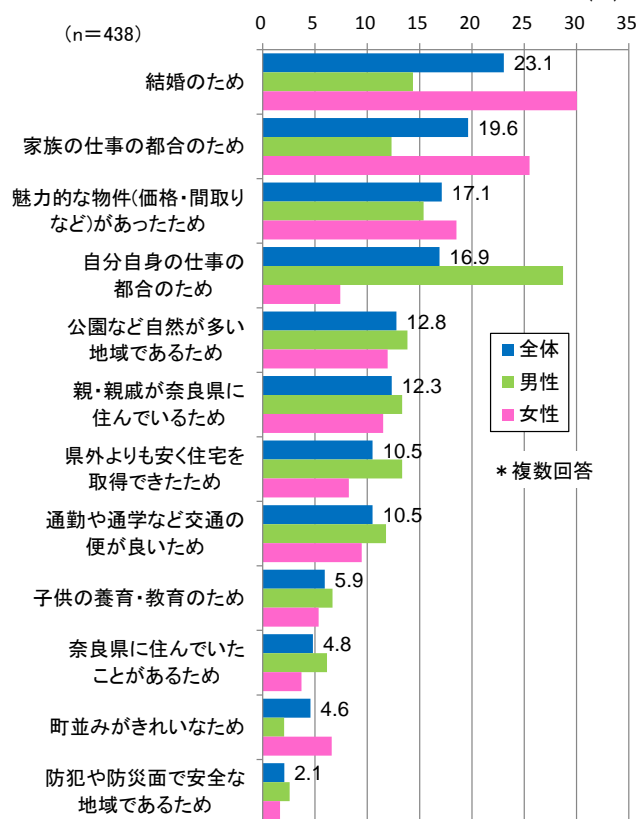
2. 奈良県への転居の理由

県外出生者（n=438）に奈良県への転居の理由（複数回答）を聞いた結果、「結婚のため」23.1%が最も多く、次いで「家族の仕事の都合のため」19.6%、「魅力的な物件があったため」17.1%、「自分自身の仕事の都合のため」16.9%、「公園など自然が多い地域であるため」12.8%、「親・親戚が奈良県に住んでいるため」12.3%が続く。また、「県外よりも安く住宅を取得できたため」「通勤や通学など交通の便が良いため」も各10.5%。

性別でみると男性は「自分自身の仕事の都合のため」28.7%が最も多い〔他の理由は20%未満〕。女性は「結婚のため」30.0%が最も多く、次いで「家族の仕事の都合のため」25.5%、「魅力的な物件があったため」18.5%が続いている。

性別・年代別では、女性50歳代は「結婚のため」「家族の仕事の都合のため」が約4割と多く、同20歳代は「通勤や通学など交通の便が良いため」「町並みがきれいなため」も約2割と多い。

奈良県への転居の理由【上位12項目】 (%)



奈良県への転居の理由(上位12項目)〔性別・年代別〕 * 複数回答 (%)

* 全体より5ポイント以上多い数値は赤字。	全体	男性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
n	438	195	28	21	21	31	90	243	22	23	35	39	118
結婚のため	23.1	14.4	7.1	9.5	33.3	16.1	13.3	30.0	27.3	30.4	22.9	38.5	31.4
家族の仕事の都合のため	19.6	12.3	10.7	33.3	28.6	9.7	3.3	25.5	27.3	30.4	34.3	41.0	16.1
魅力的な物件があったため	17.1	15.4	7.1	14.3	9.5	16.1	20.0	18.5	4.5	13.0	14.3	15.4	25.4
自分自身の仕事の都合のため	16.9	28.7	28.6	19.0	9.5	32.3	35.6	7.4	13.6	4.3	14.3	2.6	5.9
公園など自然が多い地域であるため	12.8	13.8	7.1	4.8	9.5	12.9	20.0	11.9	13.6	4.3	14.3	2.6	16.1
親・親戚が奈良県に住んでいるため	12.3	13.3	10.7	28.6	14.3	16.1	8.9	11.5	22.7	4.3	28.6	5.1	7.6
県外よりも安く住宅を取得できたため	10.5	13.3	7.1	4.8	4.8	9.7	21.1	8.2	4.5	4.3	8.6	0.0	12.7
通勤や通学など交通の便が良いため	10.5	11.8	14.3	0.0	14.3	9.7	14.4	9.5	18.2	4.3	8.6	5.1	9.3
子供の養育・教育のため	5.9	6.7	0.0	4.8	4.8	12.9	7.8	5.3	13.6	0.0	2.9	2.6	6.8
奈良県に住んでいたことがあるため	4.8	6.2	7.1	9.5	9.5	0.0	6.7	3.7	4.5	8.7	5.7	0.0	2.5
町並みがきれいなため	4.6	2.1	0.0	0.0	0.0	3.2	3.3	6.6	18.2	4.3	11.4	0.0	5.9
防犯や防災面で安全な地域であるため	2.1	2.6	3.6	0.0	0.0	0.0	4.4	1.6	4.5	0.0	5.7	0.0	0.8

* 15~19歳はサンプル数が10未満のため掲載を省略。□

2

奈良県のプラスイメージ

奈良県に対してどのようなプラスイメージ（良い印象）を持っているか、17の選択肢の中から回答者のイメージに近いもの（複数回答：主なもの5つ以内）を聞いたところ、全体では「歴史のある」78.8%が最も多く、次いで「落ち着いた」59.3%、「美しい」28.3%、「親しみのある」22.8%、「あたたかい」17.8%、「豊かな」14.0%、「快適な」13.9%が続いている。なお、「プラスイメージを持っていない」は5.6%。

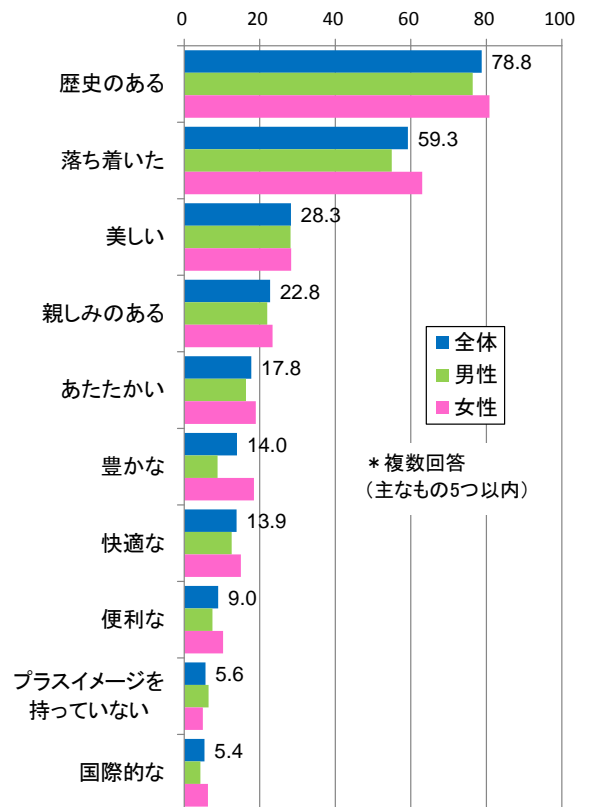
性別では、男性は上位5位まで、女性は上位8位まで全体と同順位となっている。概ね、女性はプラスイメージを持つ人の割合が男性よりもやや多い。

個別項目でみると、「落ち着いた」は女性（63.0%）が男性（55.0%）より8ポイント多い。「豊かな」は女性（18.5%）が男性（8.8%）より約10ポイント多い。

性別・年代別でみると、「歴史のある」「落ち着いた」「美しい」は、男性15～19歳、同60歳以上、女性60歳以上で他の年代よりもプラス評価の割合が多い。「あたたかい」は男性15～19歳、女性

20歳代、同30歳代で全体（17.8%）より約10ポイント多い。また、「豊かな」「快適な」は女性15～19歳、同20歳代で他の年代よりもプラス評価の割合が多い。

奈良県のプラスイメージ【上位10項目】 (%)



奈良県のプラスイメージ(上位10項目)〔性別・年代別〕 * 複数回答(主なもの5つ以内) (%)

* 全体より5ポイント以上多い数値は赤字。	全体	男性							女性						
		15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上		
n	800	373	14	55	55	58	53	138	427	23	48	58	66	59	173
歴史のある	78.8	76.4	85.7	58.2	63.6	84.5	77.4	84.1	80.8	69.6	70.8	72.4	80.3	83.1	87.3
落ち着いた	59.3	55.0	64.3	56.4	40.0	44.8	52.8	64.5	63.0	60.9	60.4	53.4	59.1	66.1	67.6
美しい	28.3	28.2	35.7	16.4	16.4	27.6	26.4	37.7	28.3	26.1	25.0	15.5	19.7	27.1	37.6
親しみのある	22.8	22.0	28.6	18.2	18.2	15.5	15.1	29.7	23.4	21.7	20.8	27.6	22.7	28.8	21.4
あたたかい	17.8	16.4	28.6	14.5	12.7	10.3	18.9	18.8	19.0	21.7	29.2	27.6	22.7	10.2	14.5
豊かな	14.0	8.8	14.3	14.5	9.1	1.7	9.4	8.7	18.5	30.4	25.0	20.7	12.1	13.6	18.5
快適な	13.9	12.6	0.0	12.7	10.9	12.1	17.0	13.0	15.0	26.1	25.0	17.2	9.1	16.9	11.6
便利な	9.0	7.5	7.1	5.5	10.9	3.4	9.4	8.0	10.3	8.7	8.3	6.9	9.1	10.2	12.7
プラスイメージを持っていない	5.6	6.4	0.0	12.7	12.7	3.4	3.8	4.3	4.9	8.7	4.2	6.9	7.6	3.4	3.5
国際的な	5.4	4.3	7.1	1.8	5.5	0.0	5.7	5.8	6.3	8.7	6.3	8.6	1.5	10.2	5.8

3 奈良県のマイナスイメージ

奈良県に対してどのようなマイナスイメージ（悪い印象）を持っているか、17の選択肢の中から回答者のイメージに近いもの（複数回答：主なもの5つ以内）を聞いたところ、全体では「活気がない」41.8%が最も多く、次いで「保守的な」40.4%、「不便な」32.0%、「閉鎖的な」30.1%、「変化を嫌う」25.1%、「おきている」22.9%、「古くさい」20.1%が続いている。なお、「マイナスイメージを持っていない」は12.9%。

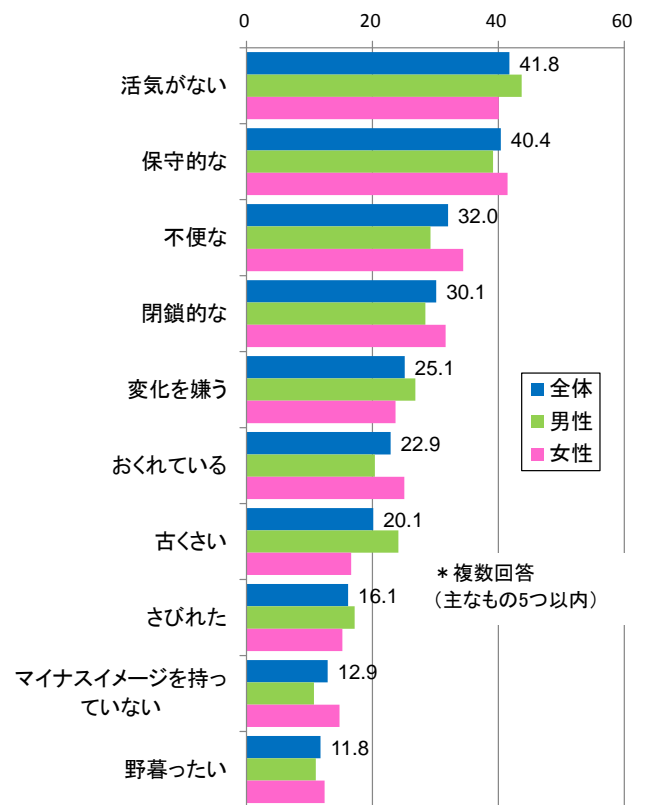
性別では、男性は上位5位まで、女性は上位4位まで全体と同順位となっている。男性では60歳以上、女性では40歳代において、全般的にマイナス評価の割合が多い。

個別項目でみると、「活気がない」は男性（43.7%）が女性（40.0%）より約4ポイント多い。「不便な」は女性（34.4%）が男性（29.2%）より約5ポイント多い。また、「おきている」は女性（25.1%）が男性（20.4%）より約5ポイント多い。

性別・年代別でみると、「活気がない」は男性

40歳代、同60歳以上、女性40歳代で他の年代よりもマイナス評価の割合が多い。「不便な」は女性15～19歳から同40歳代までが特に多い。

奈良県のマイナスイメージ【上位10項目】 (%)



奈良県のマイナスイメージ(上位10項目)〔性別・年代別〕 * 複数回答(主なもの5つ以内) (%)

* 全体より5ポイント以上多い数値は赤字。	全体	男性							女性						
		15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上		
n	800	373	14	55	55	58	53	138	427	23	48	58	66	59	173
活気がない	41.8	43.7	35.7	38.2	38.2	48.3	37.7	49.3	40.0	30.4	43.8	31.0	47.0	39.0	41.0
保守的な	40.4	39.1	14.3	29.1	27.3	41.4	32.1	52.2	41.5	4.3	27.1	31.0	45.5	47.5	50.3
不便な	32.0	29.2	35.7	30.9	27.3	31.0	24.5	29.7	34.4	52.2	50.0	39.7	42.4	27.1	25.4
閉鎖的な	30.1	28.4	7.1	23.6	27.3	24.1	26.4	35.5	31.6	21.7	22.9	24.1	37.9	20.3	39.3
変化を嫌う	25.1	26.8	7.1	23.6	32.7	25.9	18.9	31.2	23.7	8.7	16.7	19.0	31.8	23.7	26.0
おきている	22.9	20.4	21.4	21.8	20.0	19.0	17.0	21.7	25.1	17.4	35.4	24.1	34.8	10.2	24.9
古くさい	20.1	24.1	42.9	30.9	16.4	24.1	13.2	26.8	16.6	34.8	20.8	19.0	10.6	16.9	14.5
さびれた	16.1	17.2	28.6	18.2	25.5	24.1	11.3	11.6	15.2	17.4	14.6	19.0	19.7	11.9	13.3
マイナスイメージを持っていない	12.9	10.7	7.1	12.7	14.5	6.9	15.1	8.7	14.8	4.3	4.2	20.7	12.1	16.9	17.3
野暮ったい	11.8	11.0	0.0	3.6	7.3	10.3	9.4	17.4	12.4	21.7	27.1	12.1	7.6	5.1	11.6

4 奈良県の経済・産業に対する認識

奈良県の経済・産業について、どのような認識を持っているか聞いた結果、「発展・成長している」は7.1%と少なく、「衰退している」38.9%、「どちらとも言えない」44.5%、「わからない」9.5%となっている。全体の約4割、2.5人に1人が奈良県の経済・産業の衰退を実感している。

性別では、「発展・成長している」は男女でほとんど差異はないが、「衰退している」は男性（47.7%）が女性（31.1%）より約17ポイント多く、男性の評価がやや厳しいと言える。

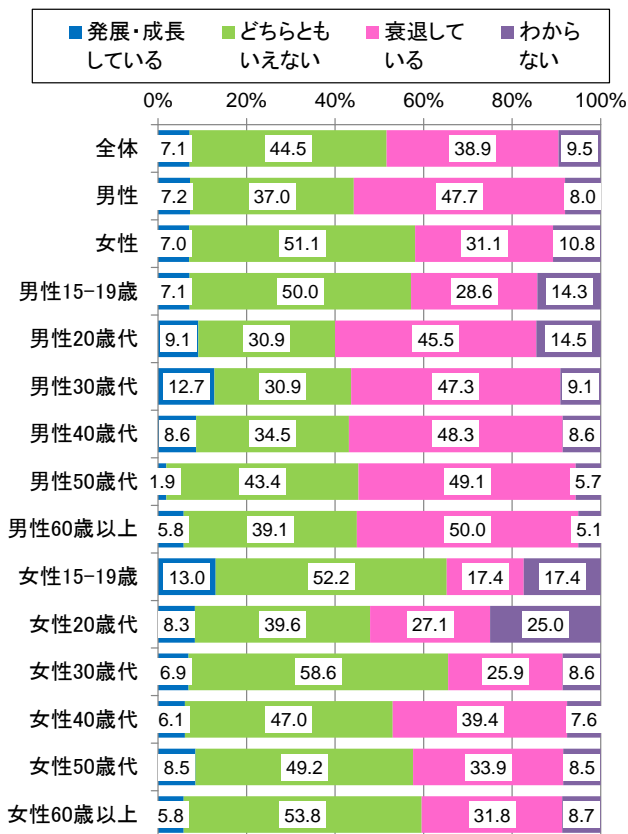
性別・年代別でみると、「発展・成長している」は男性50歳代で1.9%と少ない。一方、「衰退している」は女性では40歳代が39.4%と多い。

また、女性20歳代は25.0%が「わからない」と回答しており、奈良県経済等への関心の低さがうかがえる。

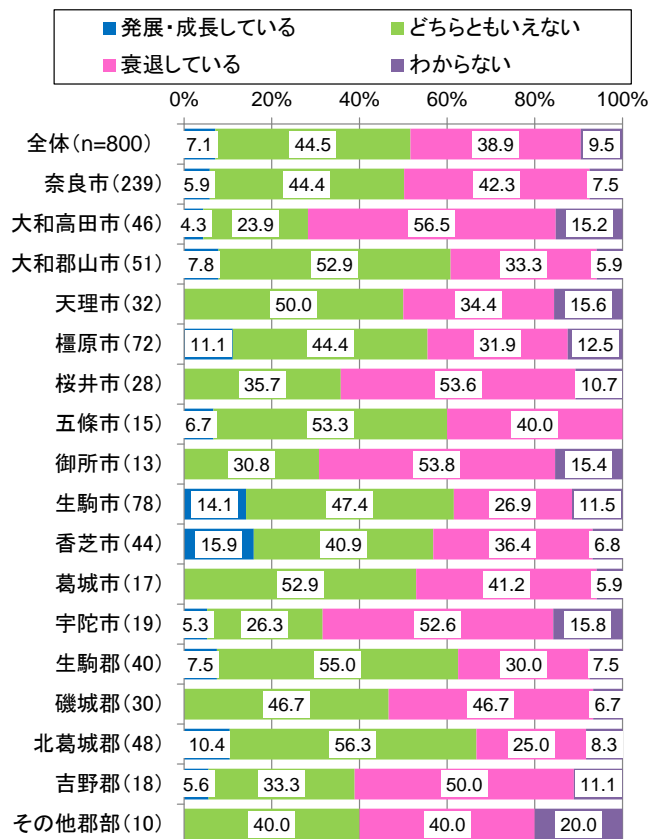
居住地域別では、「発展・成長している」は香芝市（15.9%）、生駒市（14.1%）が多い。一方、同割合は天理市、桜井市、磯城郡など6地域で該当なし。

「衰退している」は大和高田市（56.5%）、御所市（53.8%）、桜井市（53.6%）、宇陀市（52.6%）が多い。一方、同割合は北葛城郡（25.0%）、生駒市（26.9%）が少ない。

奈良県の経済・産業に対する認識【性別・年代別】



奈良県の経済・産業に対する認識【居住地域別】



5 世帯の生活の程度・水準、満足度

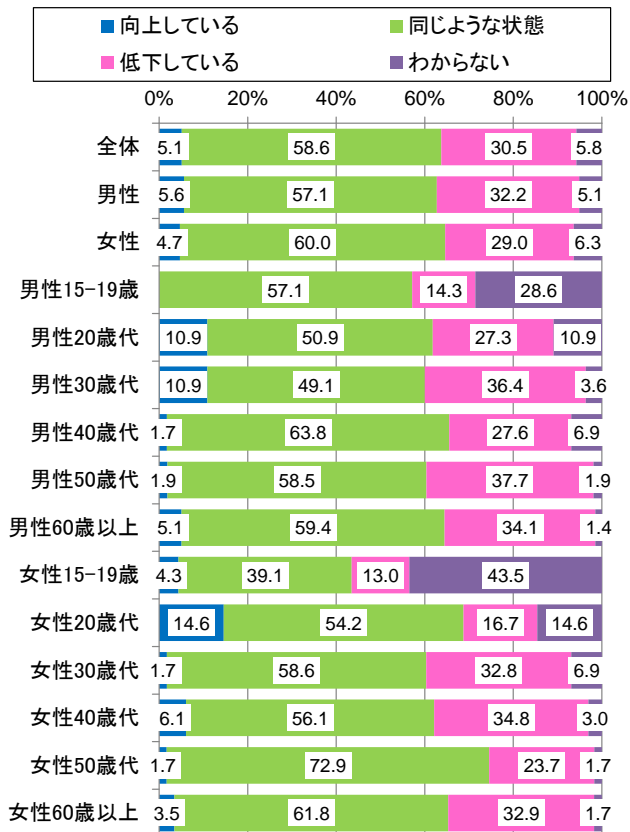
1. 世帯の生活の程度・水準（前年比）

前年と比べて世帯の生活の程度・水準がどう変化したか聞いた結果、「向上している」は5.1%と少なく、「低下している」30.5%、「同じような状態」58.6%、「わからない」5.8%となっている。全体の3割、約3人に1人が「低下している」と考えている。

性別・年代別で見ると、「向上している」は女性20歳代で14.6%、男性20歳代・30歳代で各10.9%と多い。「低下している」は男性50歳代（37.7%）、同30歳代（36.4%）がやや多い。

なお、男性・女性とも15-19歳は経済的に自立している人が少なく、「わからない」が多い。

世帯の生活の程度・水準【前年比】



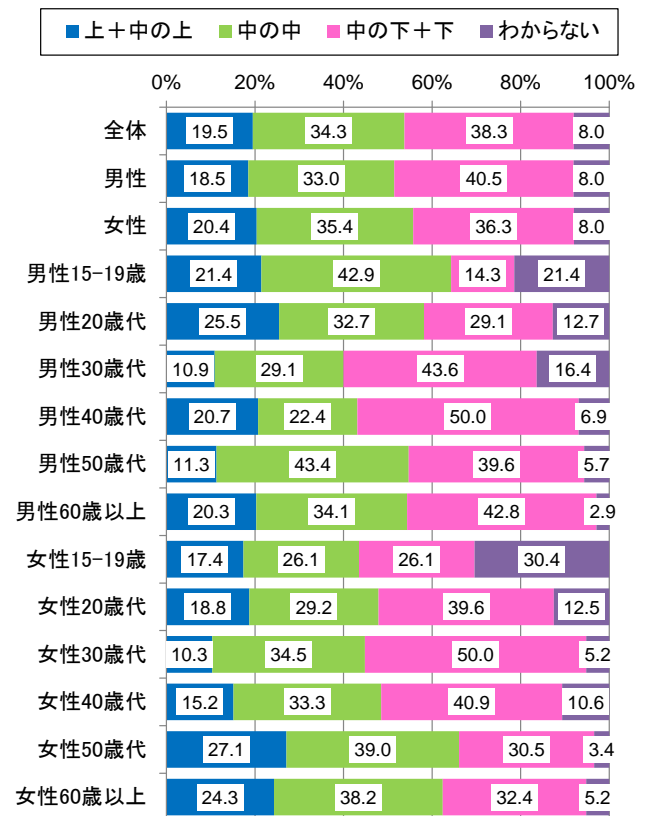
2. 世帯の生活の程度・水準（世間一般との比較）

世間一般と比べて世帯の生活の程度・水準がどのような状況にあると思うか聞いた結果、「上+中の上」は19.5%、「中の中」34.3%、「中の下+下」38.3%、「わからない」8.0%。

性別・年代別で見ると、「上+中の上」は女性50歳代で27.1%、同60歳以上で24.3%、男性20歳代で25.5%とやや多い。「中の中」は男性50歳代で43.4%、同15-19歳で42.9%、女性50歳代で39.0%とやや多い。「中の下+下」は男性40歳代・女性30歳代で各50.0%と多い。

なお、「上」は1.0%、「下」は10.0%となっている。「下」は男性30歳代で16.4%、男性40歳代・女性30歳代で各15.5%と多い。

世帯の生活の程度・水準【世間一般との比較】



3. 現在の生活に対する満足度

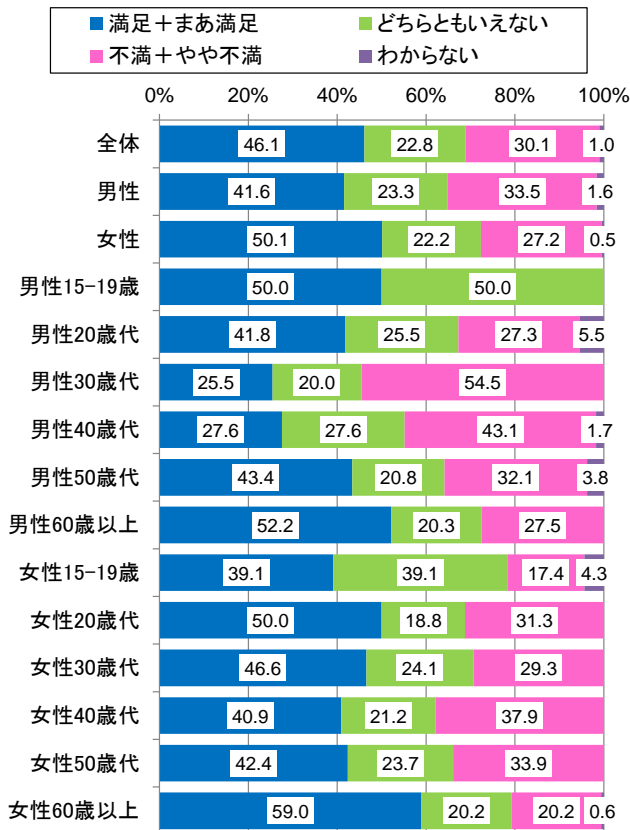
全体として現在の生活にどの程度満足しているか聞いた結果、「満足（満足4.8%+まあ満足41.4%）」は46.1%、「不満（不満18.4%+やや不満11.8%）」30.1%、「どちらともいえない」22.8%、「わからない」1.0%となっている。

性別では、「満足」は女性（50.1%）が男性（41.6%）より8.5ポイント多い。性別・年代別で見ると、「満足」は女性60歳以上で59.0%と多く、男性60歳以上で52.2%、男性15-19歳・女性20歳代で各50.0%とやや多い。一方、「不満」は男性30歳代で54.5%、男性40歳代で43.1%、女性40歳代で37.9%と多い。

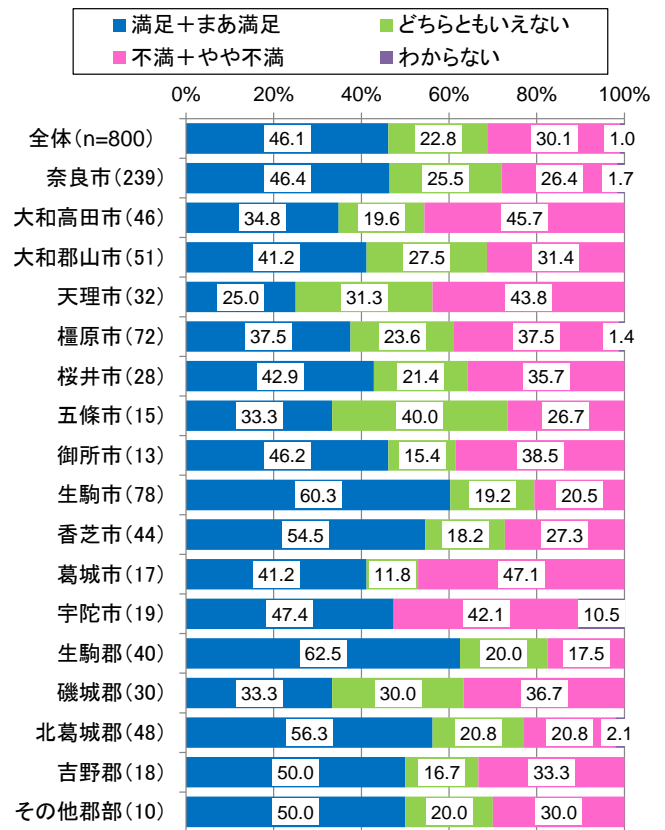
居住地域別では、「満足」は生駒郡（62.5%）が最も多く、次いで生駒市（60.3%）、北葛城郡（56.3%）、香芝市（54.5%）が多い。一方、同割合は天理市（25.0%）が最も少なく、次いで磯城郡・五條市（33.3%）、大和高田市（34.8%）が少ない。

「不満」は葛城市（47.1%）が最も多く、次いで大和高田市（45.7%）、天理市（43.8%）、宇陀市（42.1%）が多い。一方、同割合は生駒郡（17.5%）、生駒市（20.5%）、北葛城郡（20.8%）が少ない。

現在の生活に対する満足度【性別・年代別】



現在の生活に対する満足度【居住地域別】



6 買物・余暇活動などの現状

1. 買物や余暇活動等で県外へ出かける頻度

買物や余暇活動などを楽しむために県外へ出かける頻度を聞いた結果、全体では「月に2回程度」21.8%が最も多く、次いで「年に5～6回」19.0%、「ほぼ毎月1回」18.3%、「年に3～4回」11.6%、「年に1～2回」10.3%が続いている。なお、「ほとんどない」は9.8%となっている。

頻度の高い順（累計）にみると、「ほぼ毎週」7.4%、「月に2回程度以上」29.1%（7.4%＋21.8%）、「ほぼ毎月1回以上」47.4%（7.4%＋21.8%＋18.3%）となっており、県民の5割弱が買物や余暇活動などを楽しむために「ほぼ毎月1

回以上」県外へ出かけている。

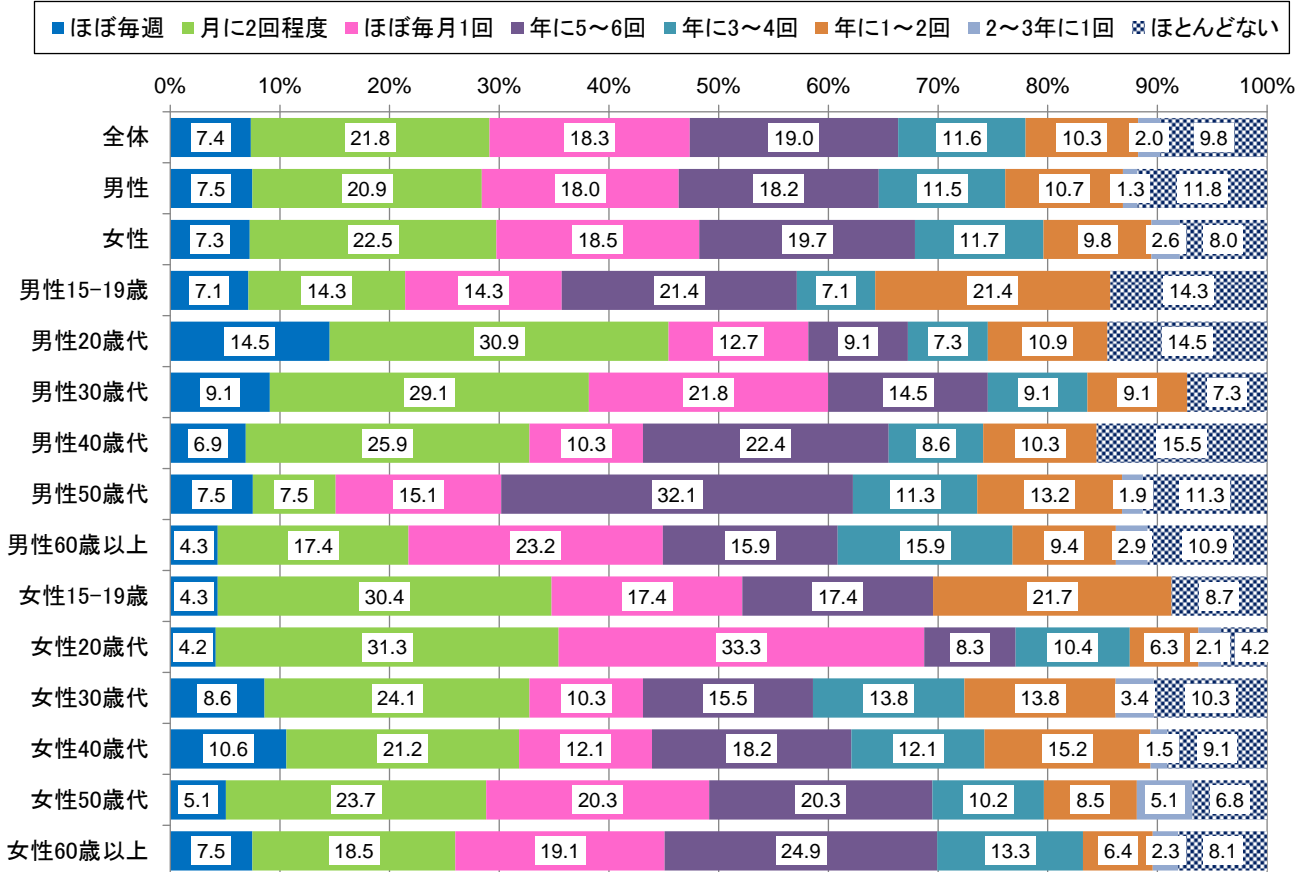
性別・年代別でみると、「ほぼ毎週」は、男性20歳代で14.5%、女性40歳代で10.6%と多い。

「月に2回程度以上」は、男性20歳代（45.5%）、同30歳代（38.2%）、女性20歳代（35.4%）、同15-19歳（34.8%）が多い。

「ほぼ毎月1回以上」でも、男性30歳代（60.0%）、同20歳代（58.2%）、女性20歳代（68.8%）、同15-19歳（52.2%）が多い。男性・女性とも60歳以上でも約45%と多い。一方、同割合は男性50歳代（30.2%）、同15-19歳（35.7%）が少ない。

居住地域別では、香芝市、生駒市、御所市が他地域より県外へ出かける頻度がやや高い。

買物や余暇活動などを楽しむために県外へ出かける頻度



2. 県内で余暇活動を楽しむ頻度

県内で旅行や社寺散策などの余暇活動（買物は含まない）を楽しむ頻度を聞いた結果、全体では「ほとんどない」28.5%が最も多く、次いで「年に1～2回」18.9%、「ほぼ毎月1回」「年に3～4回」各13.4%、「年に5～6回」12.5%が続く。

頻度の高い順（累計）にみると、「ほぼ毎週」1.9%、「月に2回程度以上」9.0%（1.9%＋7.1%）、「ほぼ毎月1回以上」22.4%（1.9%＋7.1%＋13.4%）となっている。買物や余暇活動などを楽しむために県外へ出かける頻度は、県民の5割弱が「ほぼ毎月1回以上」となっているが、県内で旅行や社寺散策などの余暇活動を楽しむ頻

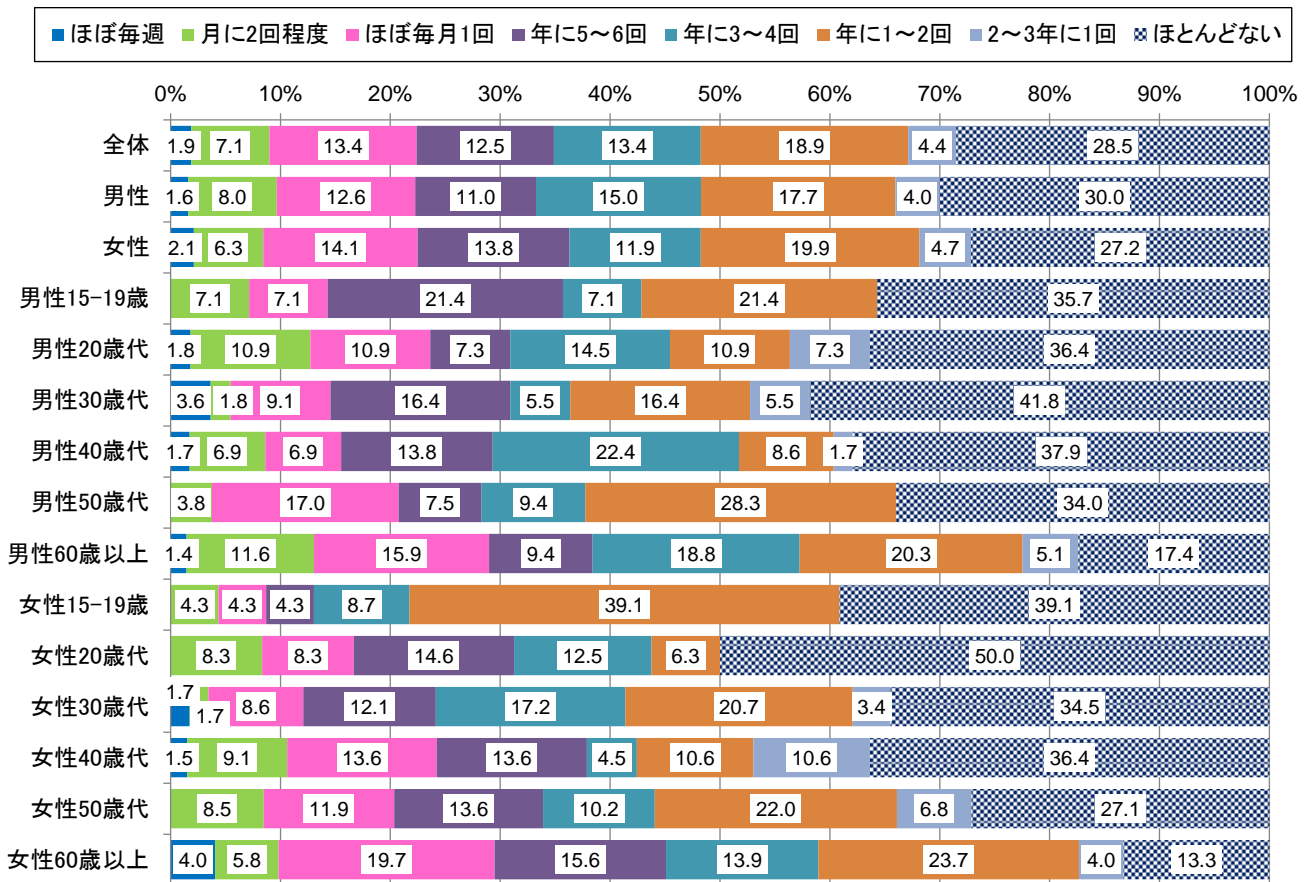
度で「ほぼ毎月1回以上」としている県民は、約2割にとどまっている。

性別・年代別でみると、「月に2回程度以上」は、男性60歳以上（13.0%）、同20歳代（12.7%）、女性40歳代（10.6%）でやや多い。

「ほぼ毎月1回以上」は、男性60歳以上（29.0%）、女性60歳以上（29.5%）が多い。一方、同割合は男性15-19歳（14.3%）、同30歳代（14.5%）、同40歳代（15.5%）、女性15-19歳（8.7%）、女性30歳代（12.1%）が少ない。

「ほとんどない」は、女性20歳代（50.0%）、男性30歳代（41.8%）が多い。

県内で旅行や社寺散策などの余暇活動を楽しむ頻度



3. 過去5年間に宿泊旅行で訪問した都道府県

過去5年間に宿泊旅行で訪問した都道府県（複数回答）は、「三重県」30.6%が最も多く、次いで「兵庫県」28.8%、「東京都」27.9%、「和歌山県」26.1%、「京都府」24.3%、「北海道」19.3%、「大阪府」18.1%、「長野県」17.8%などが続く。

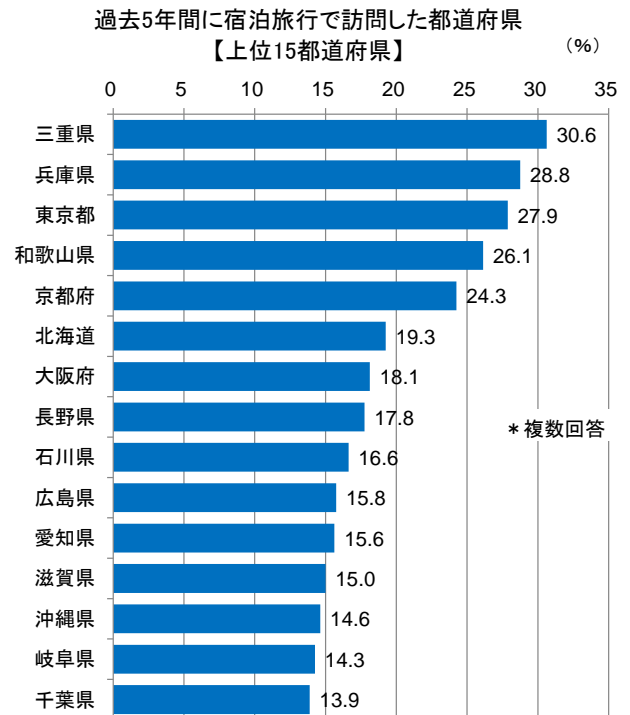
宿泊地別でみると、「三重県」は男性40歳代（37.9%）が最多、「兵庫県」は男性40歳代（36.2%）が最多、「東京都」は男性20歳代（40.0%）が最多となっている。

性別・年代別でみると、男性15-19歳は「東京都」「和歌山県」「千葉県」各35.7%が最多、同20歳代は「東京都」40.0%が最多。同30歳代・同40歳代・同60歳以上は「三重県」が最多、同50歳代は「兵庫県」が最多となっている。

女性15-19歳は「兵庫県」34.8%が最多、同20歳代は「東京都」「大阪府」各33.3%が最多。同30歳代・同50歳代は「東京都」が最多、同40歳代は「兵庫県」が最多、同60歳以上は「三重県」が最多となっている。

男性15-19歳・女性15-19歳で「北海道」がや

や多くなっている要因は、修学旅行先として訪問している人が多いと考えられる。



過去5年間に宿泊旅行で訪問した都道府県【性別・年代別】【上位15都道府県】

〔全体の降順(横)〕*全体より5ポイント以上高い数値は赤字。

	三重県	兵庫県	東京都	和歌山県	京都府	北海道	大阪府	長野県	石川県	広島県	愛知県	滋賀県	沖縄県	岐阜県	千葉県
全体	30.6	28.8	27.9	26.1	24.3	19.3	18.1	17.8	16.6	15.8	15.6	15.0	14.6	14.3	13.9
男性	31.9	30.3	26.0	25.7	24.7	19.8	18.0	18.5	15.8	15.3	16.4	13.1	15.3	12.1	12.3
15-19歳	28.6	28.6	35.7	35.7	14.3	28.6	7.1	28.6	0.0	21.4	21.4	0.0	21.4	0.0	35.7
20歳代	27.3	32.7	40.0	21.8	32.7	21.8	27.3	18.2	12.7	16.4	20.0	18.2	16.4	10.9	10.9
30歳代	30.9	18.2	25.5	27.3	25.5	10.9	21.8	12.7	16.4	12.7	9.1	7.3	16.4	9.1	7.3
40歳代	37.9	36.2	24.1	25.9	20.7	13.8	17.2	15.5	8.6	8.6	13.8	10.3	19.0	5.2	13.8
50歳代	24.5	30.2	13.2	15.1	17.0	13.2	13.2	9.4	9.4	11.3	13.2	7.5	9.4	11.3	13.2
60歳以上	34.8	31.9	25.4	29.7	26.8	26.8	15.9	24.6	23.9	19.6	19.6	18.1	14.5	18.1	11.6
女性	29.5	27.4	29.5	26.5	23.9	18.7	18.3	17.1	17.3	16.2	15.0	16.6	14.1	16.2	15.2
15-19歳	21.7	34.8	13.0	17.4	17.4	26.1	13.0	8.7	13.0	8.7	17.4	4.3	8.7	8.7	17.4
20歳代	31.3	31.3	33.3	18.8	25.0	20.8	33.3	4.2	8.3	16.7	14.6	10.4	12.5	10.4	22.9
30歳代	20.7	17.2	32.8	25.9	20.7	17.2	19.0	10.3	22.4	5.2	12.1	10.3	17.2	8.6	19.0
40歳代	28.8	33.3	28.8	25.8	27.3	7.6	21.2	16.7	13.6	21.2	19.7	18.2	9.1	18.2	15.2
50歳代	27.1	23.7	33.9	18.6	20.3	10.2	13.6	13.6	13.6	10.2	15.3	13.6	10.2	18.6	10.2
60歳以上	34.1	27.7	28.3	32.9	25.4	24.9	15.0	25.4	21.4	20.8	13.9	22.5	17.3	19.7	13.3

7 奈良県に対する認識・考え方

「①奈良県に愛着を感じている」については、肯定的（そう思う＋ややそう思う、以下同様）な人の割合が64.9%、否定的（あまりそう思わない＋そう思わない、以下同様）な人の割合が14.8%と、肯定は否定の4.4倍となっている。肯定的な人は男性15-19歳が78.6%、女性20歳代が77.1%と多い。居住地域別で肯定的な人は葛城市（82.4%）が最多（性別・年代別、居住地域別は図表不掲載、以下同様）。

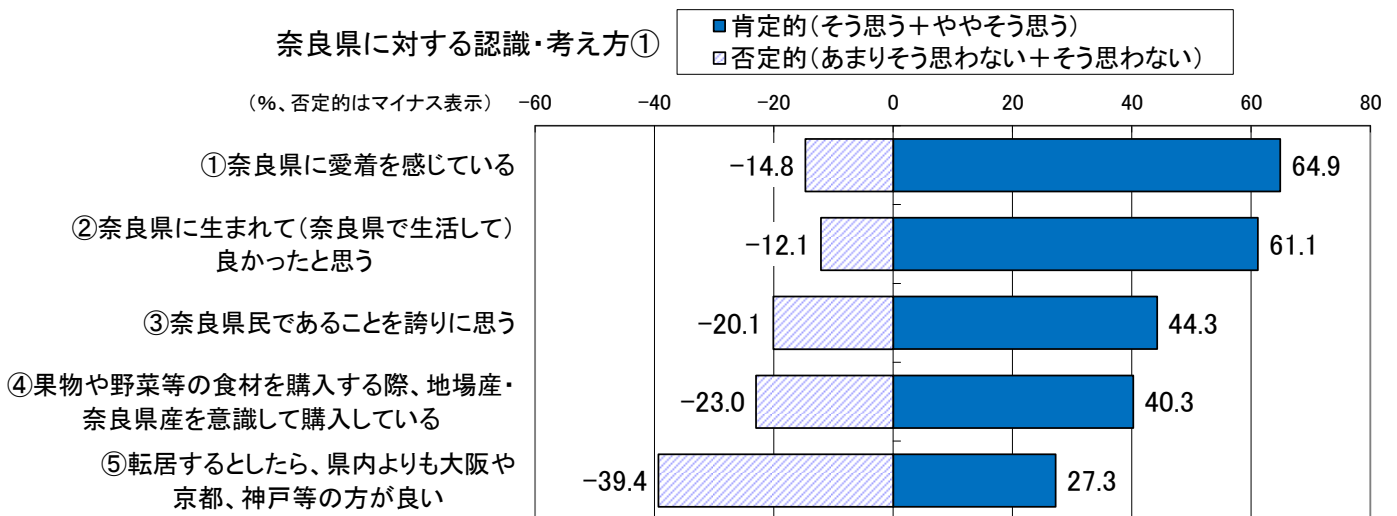
「②奈良県に生まれて（奈良県で生活して）良かったと思う」については、肯定的な人が61.1%、否定的な人が12.1%と、肯定は否定の約5倍。肯定的な人は、女性20歳代が75.0%と多い。否定的な人は、男性20歳代、女性30歳代で約2割と多い。居住地域別で肯定的な人は葛城市（76.5%）が最多。

「③奈良県民であることを誇りに思う」については、肯定的な人が44.3%、否定的な人が20.1%と、肯定は否定の約2倍にとどまり、過半数を割っている。男性20歳代では、肯定36.4%、否定34.5%と相反する評価がほぼ拮抗している。

居住地域別で肯定的な人は香芝市（59.1%）が最多。

「④果物や野菜等の食材を購入する際、地場産・奈良県産を意識して購入している」については、肯定的な人が40.3%、否定的な人が23.0%と、肯定は否定の約2倍弱。肯定的な人は、男性で60歳以上が39.9%、女性で60歳以上が66.5%と最も多い。否定的な人は、男性で20歳代が41.8%、女性で20歳代が52.1%と最も多い。居住地域別で肯定的な人は宇陀市（52.6%）が最多。

「⑤転居するとしたら、県内よりも大阪や京都、神戸等の方が良い」については、肯定的な人が27.3%、否定的な人が39.4%と、否定は肯定の1.4倍。肯定的な人は、女性15-19歳が47.8%と最も多い。否定的な人は、男性で60歳以上が47.8%、女性で30歳代が44.8%と最も多い。居住地域別で肯定的な人は天理市（34.4%）が最多。



「⑥大阪や京都へ出かける場合でも、県外へ行くという意識はない」については、肯定的な人が60.5%、否定的な人が21.1%と、肯定は否定の約3倍。肯定的な人は、男性は60歳以上が65.9%、女性も60歳以上が74.0%と最も多い。否定的な人は、男性で40歳代が27.6%、女性で20歳代が29.2%と最も多い。居住地域別で肯定的な人は葛城市（76.5%）が最多、次いで生駒市（73.1%）、大和郡山市（72.5%）が続く。

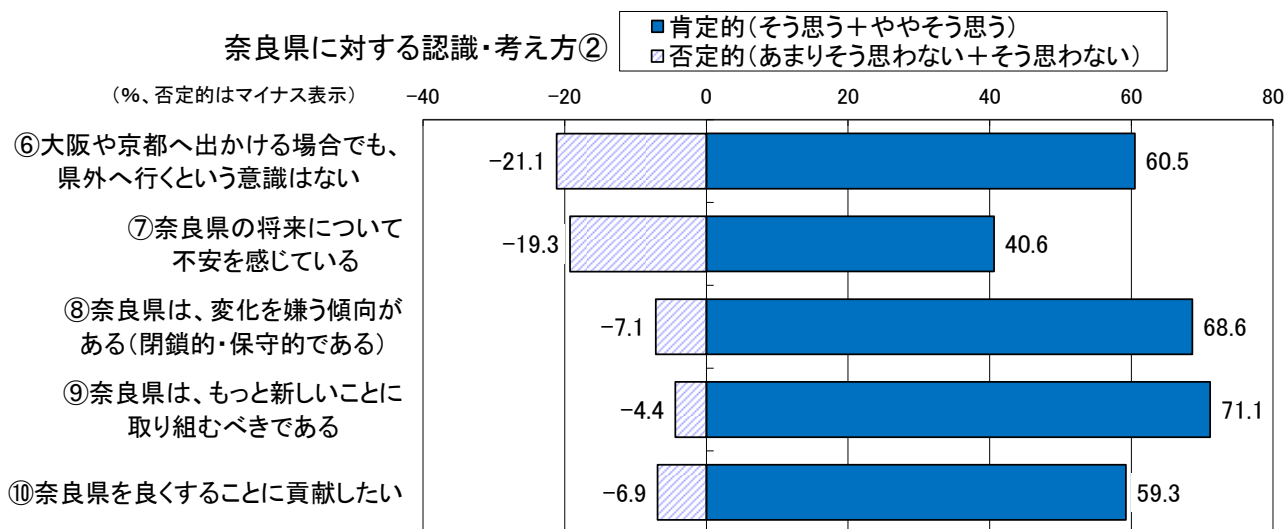
「⑦奈良県の将来について不安を感じている」については、肯定的な（不安を感じている）人が40.6%、否定的な（不安を感じていない）人が19.3%と、肯定は否定の約2倍。肯定的な人は、男性は20歳代（50.9%）、40歳代（55.2%）、女性も20歳代（52.1%）、40歳代（51.5%）と過半数を超える。否定的な人は、男性で60歳以上が24.6%、女性も60歳以上が22.5%と最も多い。居住地域別で肯定的な人は吉野郡（55.6%）、御所市（53.8%）、桜井市（53.6%）などが多い。

「⑧奈良県は、変化を嫌う傾向がある（閉鎖的・保守的である）」については、肯定的な（傾向がある）人が68.6%、否定的な（傾向がな

い）人が7.1%と、肯定は否定の約10倍。肯定的な人は、男性で60歳以上が73.9%、女性も60歳以上が75.7%と最も多い。否定的な人は、男性で15-19歳が28.6%、女性も15-19歳が26.1%と最も多い。居住地域別で肯定的な人は五條市（80.0%）が最多。

「⑨奈良県は、もっと新しいことに取り組むべきである」については、肯定的な人が71.1%、否定的な人が4.4%と、肯定は否定の約16倍。肯定的な人は、男性では15-19歳（85.7%）、60歳代（78.3%）が多く、女性では30歳代（74.1%）、40歳代（72.7%）が多い。居住地域別で肯定的な人は五條市（86.7%）が最多。

「⑩奈良県を良くすることに貢献したい」については、肯定的な人が59.3%、否定的な人が6.9%と、肯定は否定の8.6倍。肯定的な人は、男性は40歳代が67.2%、女性は60歳以上が65.3%と最も多い。否定的な人は、男性で20歳代が12.7%、女性で20歳代が10.4%、30歳代が10.3%とやや多い。居住地域別で肯定的な人は磯城郡（73.3%）が最多。



8

奈良県の人口減少に対する認識・対応

*アンケートでは「奈良県の人口は1999年（約145万人）のピーク時から7万人減少し、現在138万人となっている。2040年には110万人（2010年の約3/4の水準）にまで減少し、県内11町村で人口が半減すると推計されている」という情報を紹介し、このような人口減少を踏まえ、奈良県における現状や対応についてどのような認識を持っているか質問した。

「①地域産業を活性化し、就業機会を増やすべき」については、肯定的（そう思う＋ややそう思う、以下同様）な人が84.6%、否定的（あまりそう思わない＋そう思わない、以下同様）な人は1.3%と僅か。肯定的な人は、女性20歳代（95.8%）が最多（性別・年代別、居住地域別は図表不掲載、以下同様）。

「②女性や高齢者が働きやすい雇用環境を整備すべき」については、肯定的な人が80.0%、否定的な人は3.1%と僅か。肯定的な人は、女性20歳代（97.9%）が最多。

「③雇用の拡大に貢献するような企業誘致を積

極的に行うべき」については、肯定的な人が77.3%、否定的な人は3.5%と僅か。肯定的な人は、女性20歳代（91.7%）が最多。

「④観光産業を振興し、交流人口（奈良県へ訪れる人）の増大を図るべき」については、肯定的な人が79.5%、否定的な人は3.1%と僅か。肯定的な人は、男性60歳以上（87.7%）、女性60歳以上（85.5%）が多い。

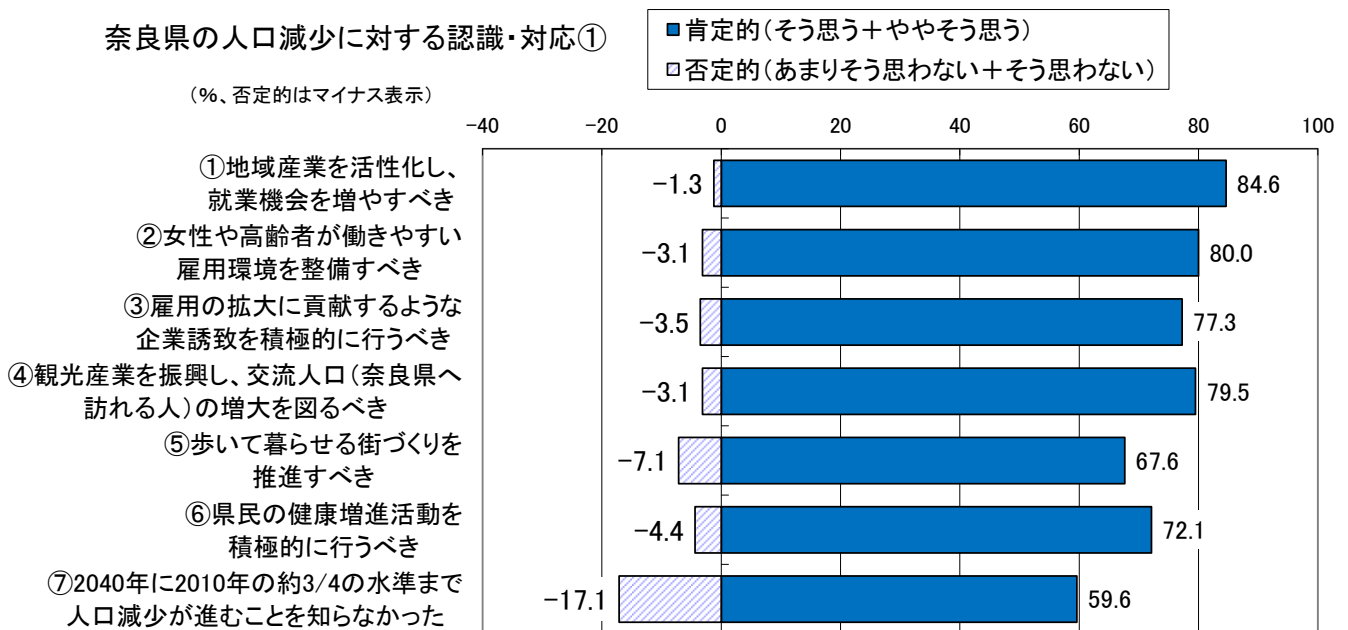
「⑤歩いて暮らせる街づくりを推進すべき」という考え方については、肯定的な人の割合が67.6%、否定的な人の割合が7.1%と、肯定は否定の約9.5倍となっている。肯定的な人は、女性20歳代（81.3%）が最多。

「⑥県民の健康増進活動を積極的に行うべき」については、肯定的な人が72.1%、否定的な人は4.4%と僅か。肯定的な人は、男性60歳以上（83.3%）が最多。

「⑦2040年に2010年の約3/4の水準まで人口減少が進むことを知らなかった」については、肯定

奈良県の人口減少に対する認識・対応①

(%、否定的はマイナス表示)



的な（知らなかった）人が59.6%、否定的な（知っていた）人が17.1%と、肯定は否定の3.5倍。肯定的な人は女性20歳代（81.3%）が最多。

「⑧行財政改革を推進し、効率的な行政運営を実現すべき」については、肯定的な人が71.8%、否定的な人は2.8%と僅か。肯定的な人は、男性60歳以上（83.3%）、女性60歳以上（79.8%）が多い。

「⑨子育てや教育にかかる経済負担を軽減すべき」については、肯定的な人が75.3%、否定的な人は4.4%と僅か。肯定的な人は、男性40歳代（87.9%）、女性20歳代（85.4%）が多い。

「⑩人口減少に見合うよう、公共事業の支出を削減すべき」については、肯定的な人が51.8%、否定的な人が10.6%と、肯定は否定の約5倍となっている。肯定的な人は、女性20歳代（64.6%）が最多。

「⑪税収の減少にあわせ、行政サービスの質・量がある程度低下させるべき」については、肯定

的な人が32.9%、否定的な人が28.9%と、ほぼ拮抗している。肯定的な人は、男性15-19歳（50.0%）、女性20歳代（47.9%）が多い。

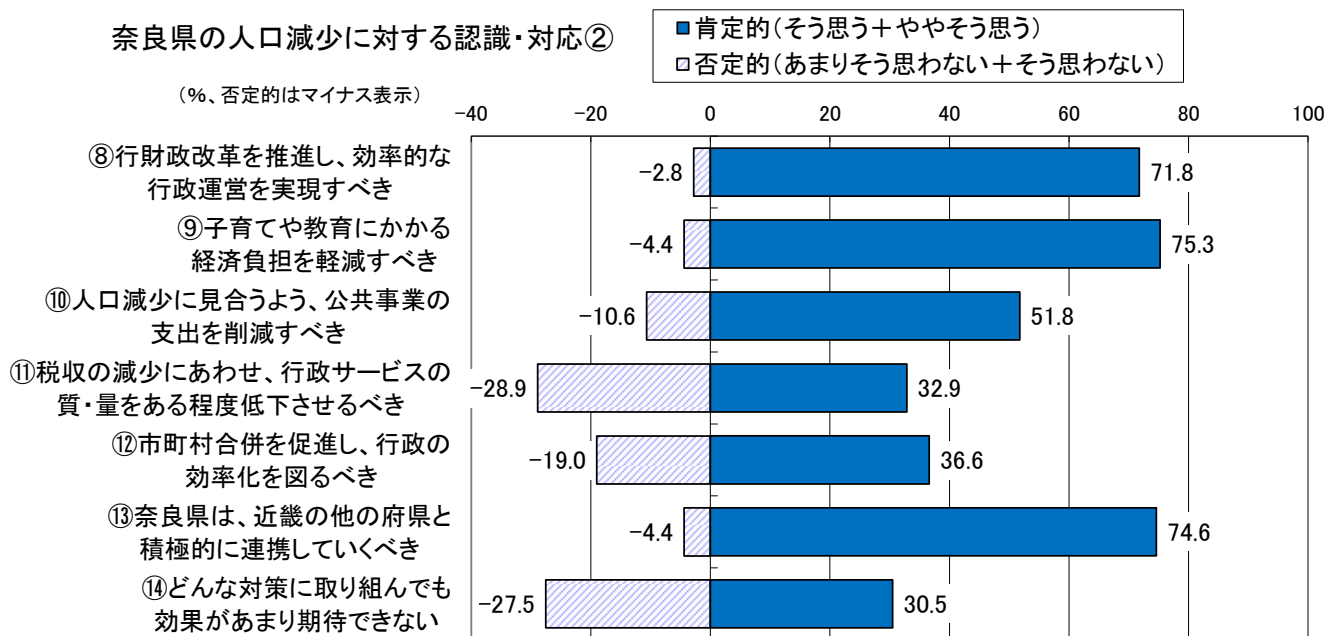
「⑫市町村合併を促進し、行政の効率化を図るべき」については、肯定的な人が36.6%、否定的な人が19.0%と、肯定は否定の約2倍となっている。肯定的な人は、男性15-19歳（42.9%）、同30歳代（43.6%）、同60歳代（42.8%）が多い。

「⑬奈良県は、近畿の他の府県と積極的に連携していくべき」については、肯定的な人が74.6%、否定的な人は4.4%と僅か。肯定的な人は、男性では30歳代（80.0%）が多く、女性では20歳代（85.4%）、50歳代（84.7%）等が多い。

「⑭どんな対策に取り組んでも効果があまり期待できない」については、肯定的な（期待できない）人が30.5%、否定的な（期待できる）人が27.5%と、ほぼ拮抗している。肯定的な人は、男性では30歳代（43.6%）が多く、女性では20歳代（43.8%）、40歳代（39.4%）が多い。

奈良県の人口減少に対する認識・対応②

(%、否定的はマイナス表示)



9 重点的に改善・充実に取り組むべきこと

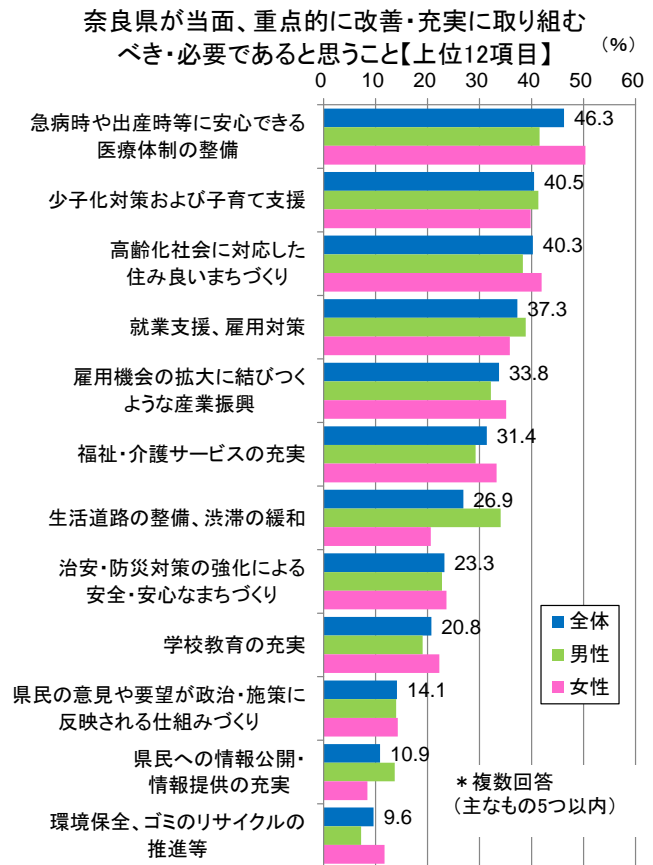
奈良県において、当面、重点的に改善・充実に取り組むべきこと、とくに必要であると思うこと（複数回答：主なもの5つ以内）は何か聞いた結果、「急病時や出産時等に安心できる医療体制の整備」46.3%が最も多く、次いで「少子化対策および子育て支援」40.5%、「高齢化社会に対応した住み良いまちづくり」40.3%、「就業支援、雇用対策」37.3%、「雇用機会の拡大に結びつくような産業振興」33.8%、「福祉・介護サービスの充実」31.4%、「生活道路の整備、渋滞の緩和」26.9%、「治安・防災対策の強化による安全・安心なまちづくり」23.3%などが続いている。

「県民の意見や要望が政治・施策に反映される仕組みづくり」14.1%、「県民への情報公開・情報提供の充実」10.9%という意見も1割以上ある。2項目とも男性60歳以上が最多（前者：21.0%、後者：17.4%）となっている。

また、「女性の社会進出の促進【行政や民間企業での活躍の場の拡大】」は7.4%（男性2.7%、女性11.5%）にとどまっている〔女性

15-19歳は21.7%〕。なお、「特にない」は4.6%、「わからない」は5.3%となっている。

性別・年代別の特徴をみると、女性20歳代では「少子化対策および子育て支援」68.8%、「急



奈良県が当面、重点的に改善・充実に取り組むべき・必要であると思うこと【上位12項目】【性別・年代別】 * 複数回答(主なもの5つ以内) (%)

* 全体より5ポイント以上多い数値は赤字。	全体	男性						女性							
		15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上		
n	800	373	14	55	55	58	53	138	427	23	48	58	66	59	173
急病時や出産時等に安心できる医療体制の整備	46.3	41.6	21.4	27.3	45.5	46.6	43.4	44.9	50.4	13.0	58.3	46.6	50.0	54.2	53.2
少子化対策および子育て支援	40.5	41.3	50.0	40.0	50.9	46.6	37.7	36.2	39.8	13.0	68.8	37.9	30.3	33.9	41.6
高齢化社会に対応した住み良いまちづくり	40.3	38.3	21.4	12.7	18.2	31.0	45.3	58.7	41.9	13.0	16.7	24.1	45.5	42.4	57.2
就業支援、雇用対策	37.3	38.9	50.0	36.4	45.5	32.8	37.7	39.1	35.8	30.4	47.9	41.4	33.3	44.1	29.5
雇用機会の拡大に結びつくような産業振興	33.8	32.2	28.6	29.1	38.2	24.1	26.4	37.0	35.1	13.0	27.1	27.6	33.3	42.4	41.0
福祉・介護サービスの充実	31.4	29.2	21.4	14.5	18.2	27.6	39.6	37.0	33.3	21.7	18.8	22.4	36.4	39.0	39.3
生活道路の整備、渋滞の緩和	26.9	34.0	14.3	27.3	34.5	44.8	28.3	36.2	20.6	4.3	20.8	19.0	30.3	22.0	19.1
治安・防災対策の強化による安全・安心なまちづくり	23.3	22.8	14.3	16.4	32.7	13.8	32.1	22.5	23.7	17.4	20.8	24.1	12.1	23.7	29.5
学校教育の充実	20.8	19.0	42.9	23.6	20.0	22.4	15.1	14.5	22.2	26.1	35.4	24.1	25.8	15.3	18.5
県民の意見や要望が政治・施策に反映される仕組みづくり	14.1	13.9	7.1	7.3	10.9	12.1	9.4	21.0	14.3	13.0	10.4	12.1	10.6	18.6	16.2
県民への情報公開・情報提供の充実	10.9	13.7	7.1	14.5	7.3	12.1	13.2	17.4	8.4	4.3	4.2	5.2	6.1	8.5	12.1
環境保全、ゴミのリサイクルの推進等	9.6	7.2	0.0	5.5	10.9	8.6	9.4	5.8	11.7	13.0	8.3	3.4	18.2	11.9	12.7

病時や出産時等に安心できる医療体制の整備」58.3%が特に多い。男性・女性とも60歳以上では、「高齢化社会に対応した住み良いまちづくり」が約6割と最も多い。

「就業支援、雇用対策」については、男性では15-19歳（50.0%）、30歳代（45.5%）が多く、女性では20歳代（47.9%）、50歳代（44.1%）が多い。「雇用機会の拡大に結びつくような産業振興」については、男性では30歳代（38.2%）、60歳以上（37.0%）が多く、女性では50歳代（42.4%）、60歳以上（41.0%）が多い。

居住地域別の特徴をみると、「急病時や出産時等に安心できる医療体制の整備」は五條市（80.0%）、葛城市（70.6%）が多く、桜井市（28.6%）、宇陀市（31.6%）が少ない。「少子化対策および子育て支援」は五條市・吉野郡（各66.7%）、御所市（61.5%）が多く、香芝市（27.3%）が少ない（居住地域別は図表不掲載）。

「高齢化社会に対応した住み良いまちづくり」は大和郡山市（51.0%）、生駒市（50.0%）が多く、桜井市（25.0%）が少ない。「就業支援、雇用対策」は五條市（60.0%）、葛城市（58.8%）が多く、香芝市（18.2%）が少ない。

総 括

■奈良県への愛着、県民としての誇りを高める

奈良県民は、大阪府など奈良県以外で出生した人（以下「奈良府民」という）が多く、全体の55%を占めている。奈良府民の場合、残念ながら奈良県への思い入れが少し弱くなりがち。

「奈良県に愛着を感じている」「奈良県に生まれて（奈良県で生活して）良かったと思う」という人は奈良府民の6割弱（県内出生者は約7割）、「奈良県民であることを誇りに思う」は4割（同

5割）にとどまっている。

県民の誰もが奈良県に愛着を抱く、また県民であることを誇りに思えるような、行政、まちづくり、積極的な情報提供などが期待される。

■県民による県内での余暇活動の機会を増やす

県民の5割弱が買物・余暇活動などで「ほぼ毎月1回以上」県外へ出かけており、同6割が「大阪や京都へ出かける場合でも、県外へ行くという意識はない」としている。多くの県民にとって、大阪・京都等は日常生活圏であり、心理的な隔たりとしての県境は存在していないと言える。

一方、県内で余暇活動を楽しむ頻度について、県民の約3割が「ほとんどない」としている。若い世代や子供連れの家族等が、気軽に楽しめるようなイベントの開催や観光ルートの発掘・紹介、美術館・博物館等での県民優待日の設定などにより、県民による奈良県内での余暇活動の機会増大を積極的に図っていくべきと考える。

■奈良県経済を覆うマイナスイメージの払拭を

県民の8割が奈良県は「歴史のある」、同6割が「落ち着いた」というプラスイメージを持っているが、一方で同4割が「活気がない」「保守的な」、同3割が「不便な」「閉鎖的な」というマイナスイメージを持っている。また、約4割が奈良県の経済・産業は「衰退している」と捉えている。

多くの県民が抱く、このようなマイナスイメージは、県民の県外での就業や消費、若者の転出超過などの一因にもなっていると推測される。

経済の活性化や暮らしやすい街づくりの推進、親しみやすい奈良県のイメージ醸成などにより、県民が抱くマイナスイメージの緩和・払拭に努めていかなければならない。

さらに「楽しい」「面白い」「活気のある」など、若者や女性からも支持されるような、奈良県の新

しいイメージづくりや情報発信、イベント開催等にも努め、県民による県内での消費・余暇活動の増大を図るとともに、県外からの観光客の消費拡大につなげていくことが必要である。

■安心して出産・子育てが出来る環境づくりを

奈良県において当面、重点的に改善・充実に取り組むべき課題として、県民の5割弱が「急病時や出産時等に安心できる医療体制の整備」、同4割が「少子化対策および子育て支援」をあげている。特に女性20歳代は7割が「少子化対策および子育て支援」、6割が「急病時や出産時等に安心できる医療体制の整備」を課題としてあげており、若い女性の懸念材料になっていると思われる。人口減少、転出超過が続く奈良県において、安心して出産・子育てが出来る環境づくりは最重要課題といえる。

■人口減少に備えた対策の検討・充実

人口減少に備えた対策として、県民の約8割が「地域産業を活性化し、就業機会を増やすべき」「女性や高齢者が働きやすい雇用環境を整備すべき」「雇用の拡大に貢献するような企業誘致を積極的に行うべき」「観光産業を振興し、交流人口の増大を図るべき」と考えており、地域経済の活性化に向けた施策の充実が期待される。

県民の約7割が「行財政改革を推進し、効率的な行政運営を実現すべき」「子育てや教育にかかる経済負担を軽減すべき」と考え、約5割が「人口減少に見合うよう、公共事業の支出を削減すべき」としている。

一方、県民の生活に何らかの影響があると予測される「税収の減少にあわせ、行政サービスの質・量をある程度低下させるべき」や「市町村合併を促進し、行政の効率化を図るべき」という考え方については賛成意見が3割強に留まる。

人口減少・高齢化の進展に伴い、税収の減少と社会保障・インフラ整備等の負担増大は避けることができない。県民への情報提供や県民との積極的な対話により、地域の実情に沿った解決策を見出していく努力が求められる。また、「奈良県は、近畿の他の府県と積極的に連携していくべき」という声も多く、道州制の可否にかかわらず、近隣府県との連携強化が今まで以上に求められる。

■人口減少に備えて情報発信・公開も不可欠

奈良県の人口は2040年に110万人（2010年の約3/4の水準）にまで減少すると推計されているが、この件について県民の6割が「知らなかった」と回答している。また、人口減少に備えた対策について、県民の3割が「どんな対策に取り組んでも効果があまり期待できない」と諦めている点は憂慮すべきことである。

行政やマスコミ、民間シンクタンク等には、人口減少を含め県内経済の現状や課題等に関する情報発信を積極的に行い、県民の関心を高め、県民をより良い奈良県づくりへの参加に導いていく責務があると考えます。

■県民の6割が「奈良県を良くすることに貢献したい」

県民の4割が「奈良県の将来について不安を感じている」、同7割が「奈良県は、変化を嫌う傾向がある」と回答している。しかしながら、一方で同7割が「奈良県は、もっと新しいことに取り組むべき」と考え、同6割が「奈良県を良くすることに貢献したい」という思いを抱いている。

多くの県民が奈良県の将来に明るい展望を抱くことができるよう、産学官が一丸となって今まで以上に奈良県経済の活性化に貢献していくとともに、県民の期待、思いを新しい奈良県づくりに活かしていかなければならない。

（島田清彦）

参考

調査要領・回答者の概要

【調査要領】

①調査実施時期

2014年10月1日(水)～10月3日(金)

②調査対象(依頼数) …奈良県在住者3,656人

有効回答数800人

③調査方法

(株)インテージ(市場調査・ネット調査会社)に登録しているネットモニター(15歳以上)に対してインターネット上での回答を依頼。

【回答者の概要】

①性別

「男性」46.6%(373人)、「女性」53.4%(427人)。

②年齢

「60歳代(60～69歳)」32.3%が最も多く、次いで「40歳代」15.5%、「30歳代」14.1%、「50歳代」14.0%が続いている。

*性別・年代別の人数は、2010年国勢調査の同構成比にはほぼ準じる割合となっている。但し、ネット調査の特性上、70歳以上の回答者が少なくなるため、不足数を60歳代でカバーしている。また、「70歳以上」を「60歳代」と合算して「60歳以上」として分析している。

③世帯構成

「親と子(2世代同居)」51.5%が最も多く、次いで「夫婦のみ」29.3%、「ひとり暮らし」8.1%、「親と子と孫(3世代同居)」7.3%が続いている。

④居住市町村

「奈良市」29.9%が最も多く、次いで「生駒市」9.8%、「橿原市」9.0%、「大和郡山市」6.4%が続いている。

⑤居住年数

「30年以上」55.9%が最も多く、次いで「20～30年未満」21.4%、「10～20年未満」13.8%が続いている。

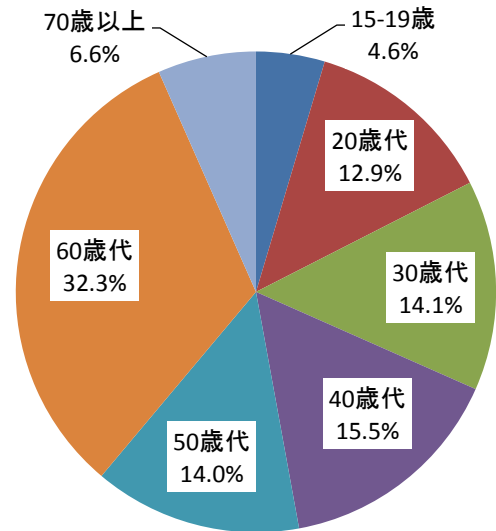
⑥職業

「会社員」25.8%が最も多く、次いで「専業主婦(主夫)」18.8%、「パート・アルバイト」13.5%、「年金生活者」9.6%が続いている。

⑦世帯全体の1年間の収入

「300～500万円未満」23.6%が最も多く、次いで「わからない・答えたくない」20.3%、「500～700万円未満」17.5%が続いている。

回答者の年齢



回答者の職業

